

尿路結石の治療

今回は泌尿器科で日本泌尿器科学会専門医・指導医の
多田靖弘医師に「尿路結石の治療」について伺いました。



▲多田 靖弘 医師

尿路結石は腎臓から尿道までの尿路に結石が存在する病態を表しています。

主要な症状としては痛痛発作と血尿があります。

七転八倒の苦しみで脂汗を流す場合もあります。また結石が尿管に嵌頓し、時間がたつと鈍痛はあつても激しい痛みには襲われません。これが問

題で、痛みがなくなつたのでそのまま放置してしまう人がいます。

すると、数か月以上の時間の経過とともに尿を生成する腎実質が薄くなって機能しない腎臓になります。ですから、尿路結石といわれたら、医師に結石が無くなったといわれるまで放置しないようにしてください。

現在の治療ですが、一つは内視鏡を用いた碎石術、もう一つは体外衝撃波を用いた結石破碎術です。内視鏡を用いた碎石術には、

（術）とTUL（経尿道的尿管碎石術）の二つ

があります。PNLはESWL（体外衝撃波結石破碎術）で碎石困難な巨大な腎結石に対して施行されます。TULは、尿道から逆行性に内視鏡を尿管まで挿入して碎石する方法で、当院では、PNLと同様に、リトラクタという振動させた空気をエネルギーに変換する装置を使用して碎石術を行っています。TULは主として骨盤内の尿管結石に対して

用いられます。ESWLは、ほとん

どの腎結石と骨盤より上の尿管結石に対して行われます。非常に良好で安全な治療成績が得られています。尿路結石を指摘されたなら、是非一度泌尿器科を受診してください。

社会福祉法人

恩賜財団 済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1番6号

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp/>

☎0898-47-2500

